

鹿児島県

鹿児島県では独自技術の開発が実を結ぶ企業や、社会貢献活動に取り組む企業が話題となった。

経済産業省「グローバルニッチトップ(GNT)企業100選」に選ばれたのは、三州産業(鹿児島市)だ。1948年の創業以来、葉タバコの乾燥技術の開発と蓄積による熱管理技術を持つ。植物輸入検疫で使用される「蒸熱処理装置」は世界でも高いシェアを誇り、今回の選定を受けた。同装置は薬剤を使わず、蒸気と熱の力で果物の品質を保持しながら植物や果物の病害虫を殺虫処理する。

東郷(同)は鹿児島県工業技術センターと

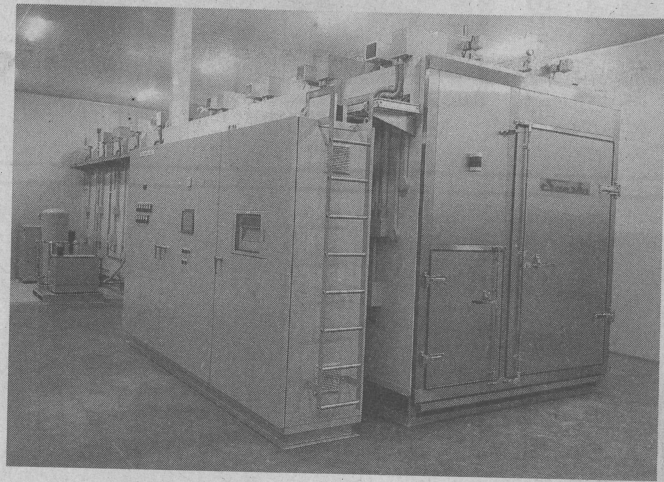
共同で、防水型USBなど接続端子の製造技術を開発し、特許を取得した。金属チップに上下左右から圧力を加えて成形する技術だ。高温熱処理をしないため不良率は0.1%以下という。東成生社長は「狙い通りの寸法で薄肉高精度な部品成形が可能」とビジネスチャンスに期待する。

新型コロナウイルスの問題が続く中で、感染症の新しい検査キットを発売した企業がある。スティックバイオテック(同)は鹿児島大学認定ベンチャー。同検査キットは、インフルエンザと新型コロナウイルスの感染の有無を、唾液検体により20—30分で簡単に

検査する。キットの消費税抜き価格は8500円。20年度に20万—30万セットの販売を計画している。

社会貢献活動に取り組むのは、サンライト化成(大阪府八尾市)。自社開発のマスクホルダー約6万個を工場がある大阪府と鹿児島県の自治体や病院、学校などに寄贈した。本業は熱硬化性、熱可塑性樹脂の精密部品製造や金型設計など。4、5月頃「マスクのひもが耳に当たって痛い」という声を受けて同製品を開発した。久目勝浩社長は「今後も要望があれば全国にお送りする」と話す。

熱管理技術・金属
端子・感染症対策品



モノづくりで社会に貢献